

雑司が谷旧宣教師館だより

第 38 号

2007 年 2 月 15 日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5

TEL・Fax(03)3985-4081

『赤い鳥』を語り継ぐ、おばあちゃんのおはなし会
開催中!

平成 15 年 4 月から毎月第一土曜日の午後 2 時～3 時、館所蔵の童話童謡雑誌、『赤い鳥』(大正 7 年 7 月創刊)に掲載されている作品ひとつと、小石川区雑司が谷に在住し子どものためにたくさんの童話を書き残した小川未明(1882(明治 15)年～1961(昭和 36)年)の作品からひとつ、合計ふたつのお話を詩人の小森香子さんに読み聞かせていただいております。3 月で 44 回目を迎えます。申し込みは不要ですのでご来館ください。(第一土曜日が祝日翌日の場合と 1 月は第 2 土曜日の開催)

このほど 19 年度の予定を作りました。これまでの 4 年間、『赤い鳥』については芥川龍之介や有島生馬、坪田譲治など同一作家の作品を数ヶ月にわたっての連続紹介や、宇野千代や林芙美子などが『赤い鳥』に寄せた数少ない童話の紹介を行ってきましたが、今年度は創刊号(1918(大正 7)年七月発行)から毎月 1 作ずつ選んでみました。また今回読み聞かせていただく小川未明の作品は、ほとんどが 1924(大正 13)年～1925(大正 14)年に書かれたものです。

『赤い鳥』は豊島区(北豊島郡高田村大字巣鴨字代地 3559(現・目白 3-17))で誕生しました。創刊者は鈴木三重吉で、「世間の小さな人たちのために芸術として、真価のある純麗な童話と童謡を創作する、最初の運動を起こしたい」と抱負を述べています。

『赤い鳥』は芥川龍之介の「蜘蛛の糸」、有島武郎の「一房の葡萄」、北原白秋の「からたちの花」、西条八十の「かなりや」などの優れた童話や童謡を生み出しました。



女子聖学院とマッケーレブ

2 月 3 日(土) 11 時、北区中里三丁目にある女子聖学院の PTA 役員 5 名が女子聖学院のルーツを尋ねて来館されました。女子聖学院は 1905(明治 38)年、キリスト教プロテスタント・ディサイプル派宣教師、バーサ・クローソンによって築地居留地 14 番地で開設されました。『女子聖学院五十年史』によれば、「クローソンと旧知の、キリストの教会の宣教師 J・M・マッケーレブが二年の休暇を得て帰米する間、仮校舎として借用する契約が成立した」ということです。

マッケーレブは青年教育を実践するために 1907(明治 40)年、それまで住んでいた築地の家売却し、目白台に 2500 坪の土地を購入しました。しかし、女子大の隣に男子寮は困ると日本女子大学の成瀬仁蔵学長より代替としてこの雑司が谷の土地をもらい雑司が谷学院を創設し、自らの居宅として本館(雑司が谷旧宣教師館)を建設しました。(雑司が谷学院は関東大震災で半壊し閉鎖するまでの 16 年間にのべ 1000 人程の学生が入寮し、マッケーレブから英語と聖書を学んだといわれています。)

マッケーレブの自叙伝“ONCE TRAVELED ROADS”には、「15 年間住んだ築地 12 番地の家を 5,000 ドルで売却した」(507 頁)と記述がありますが、彼は来日当初築地 14 番地に住み、かつこの家はマッケーレブにごく近い仲間の宣教師 E・スナッドグラスの家でした。登記記録によれば築地居留地 14 番地は 1887(明治 20)年からはスナッドグラスの名義であり 1892(明治 25)年から 1907(明治 40)年間はマッケーレブの名義となっています。マッケーレブらが 1892(明治 25)年に来日したとき、ロサンゼルスから同行したのが石川角次郎(聖学院創立者)であり、マッケーレブと聖学院ならびに女子聖学院との関りは深いようです。



【編集後記】2007 年は雑司が谷旧宣教師館(旧マッケーレブ邸)にとって記念すべき年です。1907 年に建築されてから早 1 世紀経ちました。マッケーレブや仲間の宣教師たちの事績を順次紹介していきます。(文責 浜地)

『赤い鳥』を語り継ぐ、おばあちゃんのおはなし会 19年度予定

* 毎月第一土曜日午後2～3時(1月は第2土曜日)

○おはなし:小森香子さん(詩人) ○申し込み不要 ○無料

回	月日	小川未明	赤い鳥掲載作品	回	月日	小川未明	赤い鳥掲載作品
45	4月7日 (土)	ある男と無花果 小川未明童話全集4	一郎次二郎次三郎次 菊地寛作 大正8年4月～6月(2巻4～6号)	51	10月6日 (土)	三つのかぎ 1925年10月 小川未明童話集4	弱虫 伊藤英子作 大正8年4月(2巻4号)
46	5月5日 (土)	二番目の娘 1925年8月 小川未明童話全集4	お猿の剣術 鈴木善太郎作 大正7年9月(1巻3号)	52	11月3日 (土)	さかずきの輪廻 小川未明童話集4	毘 丹野てい子作 大正7年9月(1巻3号)
47	6月2日 (土)	山へ帰りゆく父 小川未明童話集4	三匹の小豚 鈴木三重吉作 大正7年12月(1巻6号)	53	12月1日 (土)	翼の破れたからす 小川未明童話集4	泣いてほめられた話 有島生馬作 大正7年8月(1巻2号)
48	7月7日 (土)	海のかなた 小川未明童話全集4	二人の兄弟 島崎藤村作 大正7年6月(1巻1号)	54	1月12日 (土)	花と人間の話 小川未明童話集4	大法螺 鈴木三重吉 大正8年6月(2巻6号)
49	8月4日 (土)	海からきた使い 1924年10月 小川未明童話集4	小さな土産話 島崎藤村作 大正8年4月(2巻4号)	55	2月2日 (土)	ごみだらけの豆 1924年6月 小川未明童話集4	てづま使い 徳田秋声作 大正7年6月(1巻1号)
50	9月1日 (土)	子供と馬の話 小川未明童話集4	草木大合戦 柚木淳一作 大正8年5月(2巻5号)	56	3月1日 (土)	花と少女 小川未明童話集4	天地の水 楠山正雄作 大正9年7月(5巻1号)